

Japan
Food
Research
Laboratories

第 10055165001-01 号
2010年(平成22年)08月03日

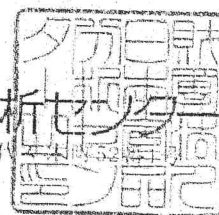
試験報告書

依頼者 株式会社 エムアイシー

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代田1-2-1



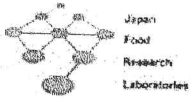
検体 本報告書中

表題 かび抵抗性試験

2010年(平成22年)06月25日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

本報告書他は掲載するまで日本食品分析センターの掲載規程を遵守ください。

財団法人
日本食品分析センター



かび抵抗性試験

1 依頼者

株式会社 エムアイシー

2 検体

- 1) パシフィックビーム モールドデオミストA
- 2) パシフィックビーム モールドデオミストB

3 試験目的

検体のかび抵抗性を調べる。

4 試験概要

検体のかび抵抗性をJIS Z 2011:2010「かび抵抗性試験方法」一般工業製品の試験を参考に
して試験した。

5 試験結果

結果を表-1(写真-1及び2参照)に、結果の表示方法を表-2に示した。

表-1 試験結果

検体	かび抵抗性			
	1週間後	2週間後	3週間後	4週間後
1)	0	0	0	0
2)	0	0	0	0

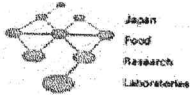


表-2 試験結果の表示方法

菌糸の発育	かび抵抗性
試験片の接種した部分に菌糸の発育が認められない。	0
試験片の接種した部分に認められる菌糸の発育部分の面積は、全面積の1/3を超えない。	1
試験片の接種した部分に認められる菌糸の発育部分の面積は、全面積の1/3を超える。	2

6 試験方法

1) 試験菌株

- ① *Aspergillus niger* NBRC 105649
- ② *Penicillium citrinum* NBRC 6352
- ③ *Rhizopus oryzae* NBRC 31005
- ④ *Cladosporium cladosporioides* NBRC 6348
- ⑤ *Chaetomium globosum* NBRC 6347

2) 胞子懸濁液の調製

ポテトデキストロース寒天培地[栄研化学株式会社]を用いて、試験菌株①～④については26℃±1℃で10日間、試験菌株⑤については26℃±1℃で14日間培養した。培養後、胞子(分生子)をそれぞれ0.005%スルホコはく酸ジオクチルナトリウム溶液に浮遊させ、1 mL当たりの胞子数が約 10^6 となるように調製し、単一胞子懸濁液とした。

各単一胞子懸濁液を等量ずつとり混合したものを混合胞子懸濁液とした。

3) 試験片の調製

検体そのもの(直径:約2.5 cm, 厚さ:約0.2 mm)を試験片とした。

4) 試験操作

シャーレ中に依頼者指定面を上にして試験片を置き、混合胞子懸濁液を見かけの表面積9 cm²に対して約0.5 mLの割合で均等にまきかけ、ふたをして、温度26℃±1℃、相対湿度95～99%で培養した。培養後、2、3及び4週間後に試験片の表面に生じた菌糸の発育状態を肉眼で観察した。

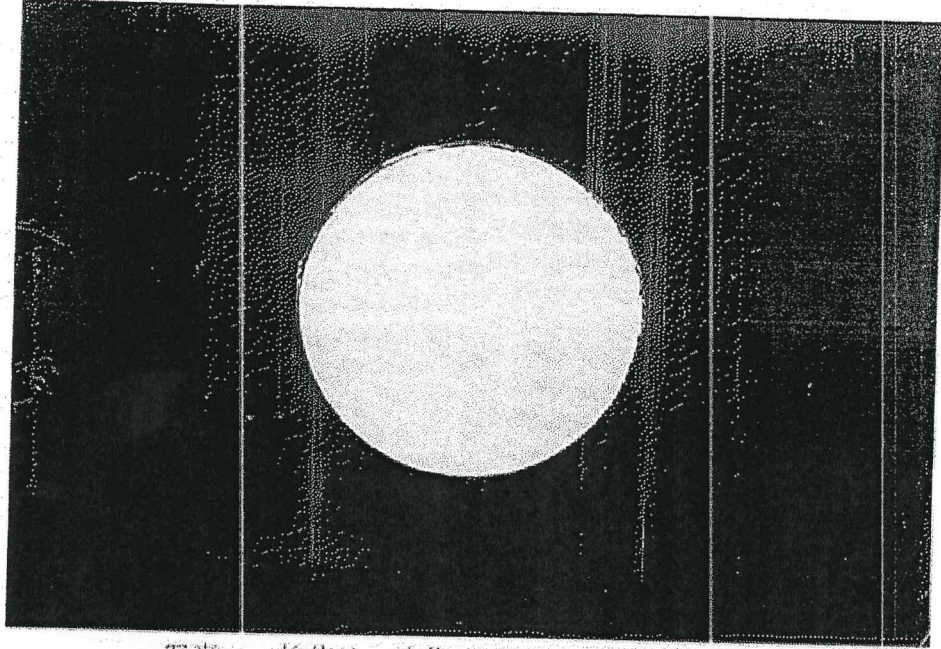
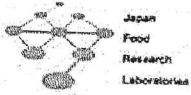


写真-1 検体1), 培養4週間後の試験片の一例

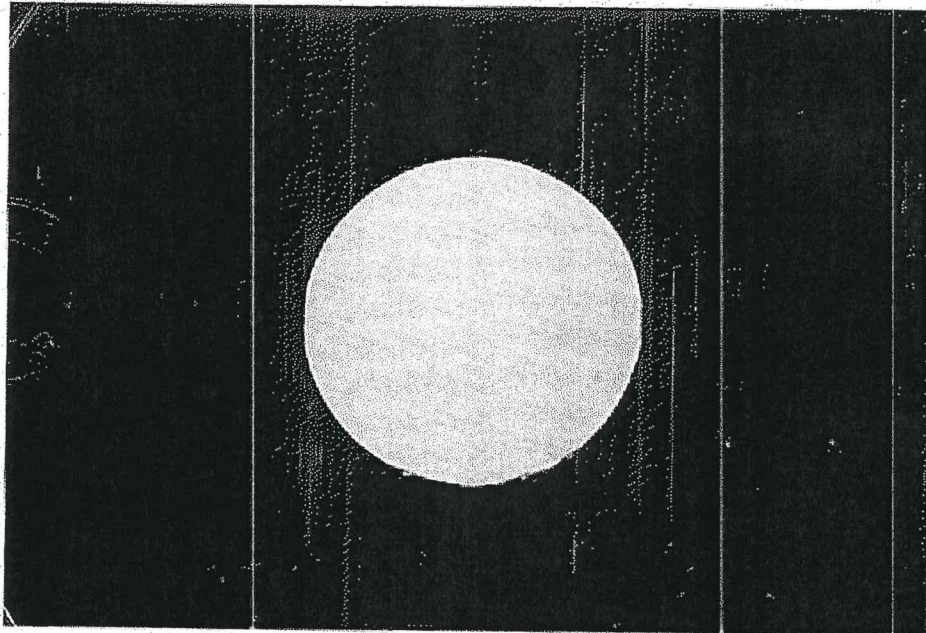


写真-2 検体2), 培養4週間後の試験片の一例

以上